

中京独立戦略本部会議 若者・女性分科会 議事概要

本部長	主な意見
大村 秀章	○元気な愛知・名古屋を目指すためには、若者が頑張り、また、世の中の半分をしっかりと支えている女性が輝く社会でないといけない。 ○女性の活躍は、昭和61年の男女雇用機会均等法で劇的に変わった。県庁も均等法以降の40代後より若年の女性職員が働き続けているので、これからという気がする。しっかりとやっていきたい。 ○グローバル化や人材の交流は非常に大事だと思うので、しっかり方向性をつくっていきたい。
河村 たかし	○保育所の待機児童対策については、名古屋モデルとして、全国で初めて保育園の園長さんを一緒に入れて総力戦をやる。全区で区役所に集まって、プライバシーは守りながら「この子はどうしよう」と、全部きちんとフォローしていく。 ○全国で初めて、子どもに目的をもたせて育てる先生として、50名ほどスクールカウンセラーを採用し、「子ども応援委員会」というものを始める。 ○濱口本部員が提案された国際学生寮を実現したい。この地域には、ノーベル賞受賞者が4人いる。そういった方々を呼んで年に1回、話をしてもらおう。喜んで人が集まると思う。

本部員	主な意見
井沢 元彦	○保育所の待機児童について、東京に比べれば、待機児童数が少なく、大変立派なことではあるが、ゼロにしていきたい。東京から地方都市に赴任しなくてはいけない子育て中のキャリアウーマンがいるとして、名古屋に行けば、保育所への入所を絶対に待たされないという形をつくれば、それをアピールもできるし、全国から優秀な人材が集まってくる。 ○世界に伍していける愛知・名古屋ということ言えば、やはり英語力が問題である。例えば、愛知・名古屋の中学校の全部にネイティブの講師を置く。そうすれば、英語力向上につながるし、外から見ても愛知・名古屋で子どもを育てようという魅力にもつながる。 ○保育所、幼稚園について、国の縦割り行政があるので、そのあたりを条例などでフォローし、うまく回るようにしていただくことも一つの手ではないか。 ○名古屋モデルのようなものをどんどんつくって、アピールしていくということが大切である。宣伝しなければいけない。それによっていろいろ批判もあるだろうが、新しく改良することもできる。

中村 捷二	○それぞれの課題について、政策や現状分析、課題認識は、かなり共有化されている。英語力などについても、何十年も前から言われているが実現していない。これは、課題とその解決のための実行方法が効果的に結び付いていないことが一番の問題だろうと思っている。 ○教育が非常に大事。教育の目的を考えると、もちろん、知識の習得もあるが、やはり、一人ひとりの自立ということが大切だと思う。また、働くことや、世の中のため、人のためになるという、良い価値観を身に付けるということが非常に重要だと考えている。 ○女性の管理職登用について、30 代では、なかり改善されている。管理職になるには、40 歳くらいにならないといけないので、現在、女性の管理職は非常に少ないが、もう少し、このままの意識を持ち続ければ、良い方向に行く。しかし、漫然としていてはダメなので、何か方策を考えなければいけない。 ○名古屋市と愛知県が一元化して、議論の結果、両本部長が、これをやるのだと決断をすれば、愛知・名古屋のパワーがあれば、必ず実現できるのではないか。これをやろう、これをやるべきだということが出てくれば、大変素晴らしいものになるのではないか。
--------------	--

濱口 道成	○名古屋市の保育所待機児童数及び入所児童数の推移を見てみると、きちんとサポートすることにより、実は人口が増えるのではないかと。名古屋モデルを出せるかもしれない。総合的な政策をもう少し深掘りできないかと思う。 ○名古屋が東京と大きく違うのは、職住接近だということ。そこで、仕事場と住居に近いところで、コストもあまりかからないよう、小学校の低学年までうまくサポートする。例えば、廃校になった小学校をうまく使うとか、そういうことをもっとどんどん出していくと、もしかしたら、愛知・名古屋モデルで人口が増えるということがあるのではないかと。 ○若者のグローバル化について、幅広く行う方法としては、例えば、知事や市長が寮長になるような国際寮をつくり、県営住宅とか市営住宅の空き部屋を集めて、日本人の若者と外国人の学生を入れてはどうか。 ○愛知県は、若者を育てて輩出する大きな日本の柱になると思う。そういう意味でも、愛知・名古屋モデルと言うものを打ち出して宣伝していくと、今の時代に日本が抱えている大きな課題に対して、正面から回答を出すような地域になってくると思う。
--------------	--

有識者	主な意見
後藤 澄江	○これからは、若者のキャリア開発ということが非常に重要である。しかし、一般的なキャリア支援をしても、今の若者にはなかなか通じないことがある。キャリア支援は、一人ひとりの状況に応じた、きめ細かい支援を行うことが大事である。本人が何を課題と感じているか、どういう形で自分が成長していきたいかなどを把握した上で、ある程度、対象別に行うことが効果的ではないか。 ○愛知県・名古屋市は、比較的保守的で、なかなか若者が外に出て行きたがらない。愛知県や名古屋市が主体になって、いろいろな大学の若者を積極的に海外に送り出すような機会ができると良い。 ○日本の若者は、コミュニケーションに苦手意識を持っている。コミュニケーションとは一体何なのか、もう少し中身を噛み砕いて若者に指し示すようなことも、非常に大事である。大学生になっていきなり、コミュニケーション力がないと言われても落ち込むだけなので、小学生の頃から、コミュニケーションが苦手、不足している子どもたちに、そういった機会を与えていくことが非常に大事である。 ○女性の活躍ということに本格的に取り組むには、社会やこの地域の主体となる様々な企業や行政、そして個々の家庭に、女性が活躍するという機運を盛り上げていただくことが大事である。